

平成 21 年 1 1 月

[配布先：全組合員]

市場情報

<各地区市場動向>

北海道

鉄骨、年度内回復見込めず

北海道の建築統計による1～8月の鉄骨推計は8万1900トンで前年同期比44.2%減、鉄骨の先行きを示す1～9月の積算数量は7万3319トンで前年同期比52.8%減となっている。ユーザーのファブ景況については、Hグレードを中心とした大手についても大型プロジェクトが一段落、秋口以降の中・大型物件の需要は見込めず厳しい状況を強いられている。M・Rおよび地方ファブも先行きの見通しが依然不透明で新規見積もり件数は極端に少なく、手持ち工事量は1～2ヶ月と十分な山済みには達していない。鉄骨単価は、ゼネコンの過当競争による低落札の影響で厳しい指値を提示され苦戦している。

切板の状況については、地場や本州の大型プロジェクト工事が一段落、橋梁や民間の中小物件、景気対策による農業関連施設、耐震補強案件はあるものの全体需要をカバーするには程遠い。先行きの見通しも新規見積もりは少なく、年度内の中・大型物件の需要回復は見込めず、量的枯渇感が一層顕著になり深刻さを増すものと憂慮されている。一方、価格についてはゼネコン間の過当競争に伴う鉄骨価格の値下がりの影響を受け、本州の切板や電炉材切板、高炉材切板価格との情報が錯綜、切板価格の値引き指値が一層厳しさを増している。シャヤ各社はお互い値引き合戦をしても現状の需要量からして大幅な受注量には繋がらない為、各社とも慎重に対応している。厳しい冬の不需要期に向かって、与信問題は引き続き深刻な状況で、需要減による在庫問題とともに今後一層多難な環境が続くであろうである。

(玉造株)・西村孝治)

東京

長いトンネル

政権が交代し1ヶ月が過ぎました。新政権の経済政策がはっきりと見えず、不安が払拭されません。民需が回復するまで、公共事業を実施し国内経済を活性化して欲しいと願うばかりです。

関東規格建材部会5社の上期稼働状況は、前年度下期比80%でした。内訳は橋梁が80%、鉄骨85%、他60%となっております。稼働率は、平均90~95%となっております。

数量の落ちた原因は、橋梁は08年度に豊富にあった関東ファブの工事が底をつき、09年度に入っても受注で苦戦をしていること、鉄骨においては来年度予定の首都圏大型物件のちょうど狭間に入ったことが考えられています。

20%落ちたとは言え他業種の落ち込みと比較したらまだまだ有難いことです。

下期は、橋梁については09年度の前倒し発注が80%あったために1~3月には切板が期待出来る予定です。また、鉄骨は首都圏大型物件の建方が2010年に集中しており、下期後半から活況となりそうです。

橋梁、鉄骨の先行きは好調のように見えますが、不安要素が沢山隠れているように感じます。

橋梁は、需要家によって仕事量の確保に濃淡がはっきり現れており、取引するファブにより仕事量も決まってくる模様で、全員が良いと言うわけには行かない状況になっています。

また、2010年度の発注量も政権交代により中止・延期が沢山出ると想定され、数量の落ち込みは覚悟しなければならないと思われます。

鉄骨についても、来年建方予定の首都圏大型物件は予定通り着工されると見込まれますが、そのあとの新しいプロジェクトが見えてきません。

足元はいいにしても、その先が読み難い状況にあります。

いよいよ長いトンネルに入る予感がする、枯葉舞う季節です。

(神鋼鋼板加工・菊地則夫)

市場委員会の次回開催予定

第143回市場委員会

12月11日（金）10：30

於 メタルワン名古屋